

発行/平成元年6月15日 No.11
えひめ地域づくり研究会議
(財)愛媛県まちづくり総合センター

特 地域・かかわり集

- 自然に自然にと木にこだわって / 坪内 茂楠…2
- 自給の邑 / 平岡 秀樹…4
- 島を離れてみて / 池本 敬子…6
- こんにちは東予日曜市です / 首藤 忠明…8
- 写真とともに / 田尾 忠士…10

研修レポ

- 住民の生命を守る村 さわうち …12
- “飯田、美しきかな” …14

活動日記

- 柳川堀割物語・顛末記 …16
- 楽しく“のむら”を語る会 …17

REPORT

- 高らかに、まちづくりの想い …20
- インフォメーション
- ビデオ・テープ紹介 …23

研究会議 News Letter

- 美しい人たちによる
“女性フォーラム'89 いわぎ” …24

MESSAGE

- あなたのコーナー …26
- TOWNタウン パソコン通信 …27
- まちセン「ちょっとーク」 …28

まちづくりネットワーキングえひめ

舞 たうん

VOL 11





自然に 自然にと

木にこだわつて

玉川町 坪内茂楠

現在、ボッサンクラフト・ウツ
ディロードでお仕事しています。

名前だけでは何だかわからないけれど、木工房なのです。毎日ここで木工などをして、生計を立て、ついでに楽しく生活しちゃえ！と思っている訳ですが、工房を開いてこの四月で三年目を迎ますが、生計が立つまでは、もう少し時間がかかりますよね。でも良い仕事を続けていく内に、だんだんと状況も好転していくだろうと、樂観視しているのですが、今後どう展開していくべき良いだろう？と考えることもしばしばです。この工房が自分にとって定年退職が無く、且つ、楽しくクリエイティブな生活の基盤と成り得る場所である事を前提に考える場合、仲々うまく行かない事が現実にはたくさん出て来ます。この地域と、どう関わって

て行けば良いのだろう？と考えてしまいます。

☆ 工房かいわい

突然ですが、工房のインフォメーションなどを致しますと、これが、

今ではあまり珍しく

もないのですが、標

高四百米程度の山中

の廃屋だらけの小さな

集落の中に有る分

校跡を手直しして、

工房にしています。

越智郡玉川町龍岡木

地という地名です。

今治市の中心から三

十分程度の山間部で

すが、初めての人には、時間の割

に遠く感じる様です。ひと昔前なら「なにもそんな所で」と言われるでしょう。冬は寒くて、夏は蚊等の虫や蛇が出て来ます。この辺



りが大体のデメリットの部分なのですが、又、それ以上のメリットも有ります。

自然が豊富で、四季折々が明確にやって来たり、ロケーションが

良く、ストレスになるような雑音や椅子や食器棚を製作している。

というのが、町の人たちにとっては、何か魅力を感じる部分なのでしょう。

ここで、木工を始めて二度冬を過ごしました。

今治市内から比べると、やはり寒くて、日照時間

も一番短い時だと、朝十時半に昇り、正午過ぎには山に隠れてしまします。

そんな日の続く時期には、当然訪問客も少ないです。

寒くて誰もいなくて、暗い日が続く訳です。誰だつ

て、そんな生活をしていると落ち込みそうになりますよね。それで

お客様とは、どう関われば、うまくいくだろう？ 全く漠然とした

て、どう生活をすればよいかナ？

お客様とは、どう関われば、うまくいくだろう？ 全く漠然とした

疑問なのですが。この工房の運営

が、前向きで安定するには、まだ

まだ問題が山積みですが、今は取

り敢えず、先程の二人連れの女性のようないい初めで訪れてくれたお客様とよくコミュニケーションを取りながら、木工工作をしている

そして、あまり人が来ないけど、

これから先、大丈夫かな？と時々心配していると、桜が咲き始め、

少しずつ訪問客が来て、仕事ももらえて、ホッとするのです。

三月頃だったと思いますが、二人連れの女性が訪れました。ひと

部屋の教室がショールームに成つていて、そこには、今までに製作した作品の写真と、十点ばかりの作品がパラパラと並べてあります。

その二人連れの女性は、それらを見て、とても気に入つて、飾り棚を注文して、ニコニコしながら帰つて行きました。

そこで、僕はよく見て、とても気に入つて、飾り棚を注文して、ニコニコしながら帰つて行きました。

☆ 仕事観・生活観

最初に書いたように、僕はよく考えます。ここで、どう仕事をし

て、どう生活をすればよいかナ？

お客様とは、どう関われば、うまくいくだろう？ 全く漠然とした

疑問なのですが。この工房の運営

が、前向きで安定するには、まだ

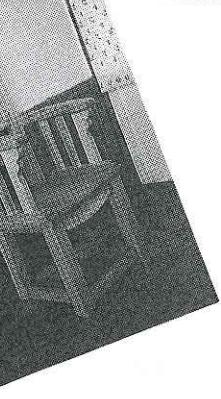
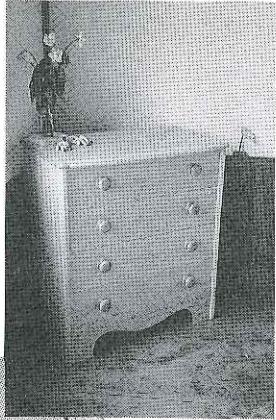
まだ問題が山積みですが、今は取

り敢えず、先程の二人連れの女性

のようないい初めで訪れてくれたお客様とよくコミュニケーションを取

り、出来る限り満足のいく家具を提供し、更にコミュニケーションを取り、アフターケアも含めて次の仕事を頂き、ビジネスとは言つても双方が互いに必要としある関係を保つようにしていこうと思ひます。

僕が作る家具というのは、美術工芸品にはしないようにしようといます。装飾もあまり凝りません。豪華でもありません。そのくせ、手作りすると、簡単な物でも手間暇がかかるから、作品も価格相応に見て頂けない事がが多いのですが。しかし、商品としてのインパクトは、多少薄れても、デザインは、素朴、シンプルが一番だと思ひます。僕は主に、アメリカンカントリー的な物がとても好きで



モラスな字体で名前を焼き付けました。手の平よりも少し大きめの、単なる板にユ

さな木片でさえ自然を感じます。ここを訪れる人の中に時々、表札を頼まれる方がいます。手の平よ

りも少しだけ、表面的に見ると、ボケた、素朴な物を見ると、感動

をしてしまいます。重厚で美しく塗り上げた豪華な家具も良いのですが、素肌のままムク材で出来た家具は、とても自然で暖かいのです。

すが、和風の物でも、特に少し古ぼけた、素朴な物を見ると、感動をしてしまいます。素人臭くとも、木の

色彩も艶もごく自然で無理がなく、

刺激されません。自然の波長で、

とても和らかく、そして深く飛び込んで来ます。人工的には、とても表現出来ない味わいなのです。

そんのが何十年かたって、多少のキズでも入り変色し、年季が入ると、もうたまらなく感動モノです。大型家具でなくとも、小さな木片でさえ自然を感じます。

浴を感じる、と言つていました。

小刀で鉛筆の木の部分を削ると削りクズがピンとはねるたびに、木の匂いが薫るからでしょう。自然が無くなってしまえば、豊かな感性も、豊かな心も育たなくなつてしまふようで、やっぱり感じる事の方が多い。豊かな心も育たなければならぬと思います。

☆ 僕の高まりを期待

話がだいぶ脱線しましたが、最近では何を買うにしても質感から味わいの部分にまで価値感が高まっている人達が増えて来ているそうです。表面的な良さよりも、優しく、暖かく、素朴で、普遍的な物へと価値感を高めてほしいと思います。

お客様でもハッキリとしたボリ

す。出来上がった物を見ると、字はヘタでもそれなりに良く見えてします。素人臭くとも、木の持ち味が充分それをカバーして、それが味わいになってしまいます。

余談なのですが、前にテレビか雑誌で、漫画家の加藤芳郎様が、鉛筆を小刀で削る時に、小さな森林浴を感じる、と言つていました。



シードを持って少し拘って生活をクリエイトしている方と思う方と話をしていると、指向性が似ている事もあって、「今度こんな作って下さい。」と言われる、二つ返事で「OK、OK」とうれし気にしてしまいます。僕が作ってみたい、と思う物と、お客様のニーズが合うと、頑張りたくなつてしまふのです。そしてよい仕事ができ、ニコニコしながら充分な報酬を頂ければ、こんなうまい職業はないぞ!!などと考えるのです。

そうして僕が作った家具を、日常必要な道具として、ユーザーには普通に使い込んで、家族と同じように生活を共にしてほしいと思ひます。そして又、何年かたった時には、時々見に行きたいな、と思っています。



白 給 の 邑

ムラ

北条市 平 岡 秀 樹



一 自給の邑発足

私は広島県呉市生まれの三十六才です。サラリーマンの家庭に育ちながらも百姓になる夢を持ち続け、学校を卒業後就職することもなく百姓一年生になりました。最初は熊本で酪農の実習を一年ほどやり、それから愛媛県周桑郡に移り友人四人との共同生活に入りました。この農園はチロリン農園と名付け私自身は有機農業（カンキツ主体）をしつつ、百姓になれるためのあらゆる勉強をしていきました。同じ農学部の友人三人と、横浜から来た百姓志願の一人を加えた四人での共同生活は、お金はありませんでしたが、楽しい、いいきいきとした三年間でした。そして、この中の一人の友人と一緒に一九八三年から現在にいたるまで



平岡 秀樹さん

愛媛県北条市の山中で有機農業を行っています。この会を自給の邑（ムラ）と名付けました。この会は、十年前に愛媛に来て農業をしていくなかで、私達のめざす安心して食べられる野菜作りに賛同して

地を探していった結果、北条市の山中にその土地が見つかりました。百姓と市民（会員）が共通の意識を持ち、畑も会全体の共同畑といふ気持ちで、ここから作られた野菜や自然卵を等しく分け合って皆んなで自給自足していくこう、という趣旨で自給の邑はスタートしました。

さて、私の住む所は儀式という

村で、北条市内から十kmほど山手に入り、さらに村から一km奥また所にある最後の畑にあります。だから水や空気の環境という点では申し分ありません。さらに、まわりからの農薬の心配もほとんどない所です。

二 自給の邑とは

私は百姓になってから時間がたつにつれ、やはり人間は自分の食べていくものは自分で作っていくという方向でがんばっていかなければならぬと感じるようになります。自給の邑は、この私の気持ちに共感してくれる人達と一緒に会員をつけてその野菜と一緒に会員を作っていく会を作ろうという話になり、私もその野菜を作れる土

日本では大半が農地を持たない非農家です。松山においても同様です。会員の人達と一緒に食べ物を作っていくというのは一つの理想ではありますが、意識だけでも私と同じものをもつ人達と一緒に自給自足をめざしていく。だから、畑も私的なものではなく自給の邑全体の共有物なのです。

さて、現在の専従者はスタート

時と同じ二軒です。会員数は四十世帯。田畑は借地も含め一、四ha。そして平飼いの鶏が四百羽ほどいます。収穫した野菜は、週に二回セットに組んで松山市を中心に私達が配っています。午前中に収穫して午後から配達するため非常に忙しいのですが、がんばっています。野菜はすべて露地ですので端

境期も当然あり、同じ野菜が続くことも多く、できた野菜も希望をほとんどの無視してセットに組んでいるため問題点も多いのですが、今のところは同じ形で行っています。自給の邑は、この私の気値段をつけず希望量に応じて会費という形でおさめてもらっています。野菜代金としては、個別には

す。会員の人達とのふれあいとしては、月に一度の縁農・例会。子供を中心としたサマー・キャンプ・秋の収穫祭・忘年会など。回数としてはあまり多くなく、縁農・例会などに出席する人も限られていますが、それなりのふれあいはもてていると思います。しかし、もっと多くの人が参加してくれれば、この会ももっと発展するだらうと思っています。しかし、あせらずにやつていきます。

三 人とのかかわり

私も、有機農業を行っている関係で、世間一般的には少し変わった人達が多く訪ねて来ます。百姓

の若者。環境問題を考える人。僧。おへんろさん。先生などなど。供を中心としたサマー・キャンプ・秋の収穫祭・忘年会など。回数としてはあまり多くなく、縁農・例会などに出席する人も限られていますが、それなりのふれあいはもてていると思います。しかし、もっと多くの人が参加してくれれば、この会ももっと発展するだらうと思っています。しかし、あせらずにやつていきます。

志願の若者。環境問題を考える人。僧。おへんろさん。先生などなど。供を中心としたサマー・キャンプ・秋の収穫祭・忘年会など。回数としてはあまり多くなく、縁農・例会などに出席する人も限られていますが、それなりのふれあいはもてていると思います。しかし、もっと多くの人が参加してくれれば、この会ももっと発展するだらうと思っています。しかし、あせらずにやつていきます。

四 私の夢

私の求めているものは、農を中心とした一つの新しいふるさと作りです。本当の意味でのふるさと

を失ったない都会の人達に、ふるさとを自給の邑の中に持つてもらいたいと思っています。邑の畠で自然を感じて欲しい。土にふれて欲しい。そして私の夢は、より多くの子供達が自然というものを感じられるよう畠の中に山小屋を作ることです。キャンプもいいのですが、夏休みなど長期の場合にはやはり家が欲しいです。そして、農業をしたいと思っている人達に

積んでいく。皆まじめにやっていれる。農業の話・医学・貧困問題、彼らとの話はねむりかけた私の心を呼び起こしてくれました。邑の会員の人の中にも時間がたつにつれて、私もびっくりするくらいに意識の高まった人達もいます。私はこれらの人達とふれあうことの喜びをつくづく感じ、今から彼らを見守つていけることの幸せを感じています。

私の求めているものは、農を中心とした一つの新しいふるさと作りです。本当の意味でのふるさとを持たない都会の人達に、ふるさとを自給の邑の中に持つてもらいたいと思っています。邑の畠で自然を感じて欲しい。土にふれて欲しい。そして私の夢は、より多くの子供達にとって、きっとプラスになると思っています。

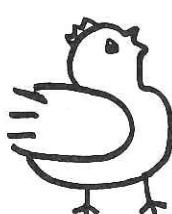
あれこれ

と考へなが

ら、今日も

畠で汗して

います。



島を離れてみて



生名村 池本敬子



私は、現在岡山から電車で一時間半もかかる、津山市に住んでいる。城下町もあり、目の前には、大きな吉井川が流れ、夏は、大変暑く、冬は雪が降り寒いという盆地である。小さい頃からピアノを習い続け、いつしか音楽の教師に憧れ、とうとう音大に入学し、は

や四年目の春を迎えるとしている。



池本敬子さん

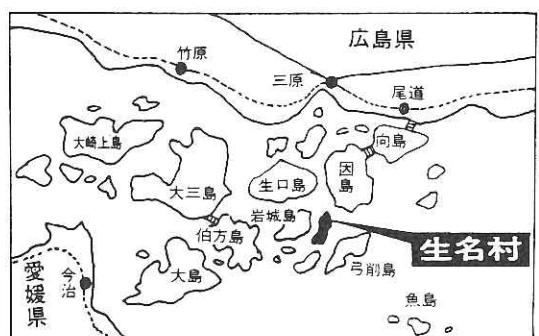
私は生まれ育ったこの瀬戸内海の島々が、大好きである。海を見るとほつとして、何もかも忘れいくようだ。尾道の駅に近づくにつれて、だんだん海が見えてきた時のあの喜びは、いつも変わらない。島を離れてみた人にしか味わう事のできない、感動である。ここを離れて、私はいろんな事を学んだ。

まず、自分のレベルをはつきりと実感したのだった。中学校の頃から、数学の先生に耳にたこができるほど何回もいわれていた言葉が始めて納得できた。それは、「島の子は、バケツの中のザリガニ」といわれた私達の出発から、

大きな吉井川が流れ、夏は、大変暑く、冬は雪が降り寒いという盆地である。小さい頃からピアノを習い続け、いつしか音楽の教師に憧れ、とうとう音大に入学し、は

私が高校を卒業し、この島を離れ巢立って行く。津山も好きだが、やはり私は生まれ育ったこの瀬戸内海の島々が、大好きである。海を見るとほつとして、何もかも忘れいくようだ。尾道の駅に近づくにつれて、だんだん海が見えてきた時のあの喜びは、いつも変わらない。島を離れてみた人にしか味わう事のできない、感動である。

ここでどうのこうの対抗するかでそこまで何回もいわれていた言葉をするという事が、バケツの中のザリガニといわれた私達の出発かもしれない。人生のふし目であろう。ここがきまつてくるのだと私は思



二だ。」という言葉。つまり、高校まで周りの友達はほとんど同じで、何の変化もないため、勉強もしないでのんびりくらして、バケツの中の狭い世界しか知らないで育ってきたという事である。勉強も運動もピアノに至っても、ほどほどできていても、バケツの外の世界にでも、その事を実感し、努力するという事が、バケツの中のザリガニといわれた私達の出発かもしれない。人生のふし目であろう。ここがきまつてくるのだと私は思

て踊り出す。音楽だけは、言葉のない子供にとつても、私達にとても唯一共通のものである。この時ばかりは、自分の専門が音楽でよかつたとつくづく感じた。この子達は、何をやらせても一生懸命

さて、自分はうまくそのふし目を乗り越えたのだろうか、改めてこの三年間を振り返ってしまった。次に、たくさんの人との出会いによって、自分を見直すことができた。私にとっては、一番の収穫である。こんな小さな島にいるとなかなか人と知り合う機会などない。だから島の人の考えは、幅が狭いのだと思う。私の一番の出会いは、養護学校の生徒だった。作陽の音大では、三年の六月に一週間の実習がある。その学校は、精神薄弱の子、つまり知恵おくれの子ばかり。私の担当のクラスはしゃべれない子ばかりで、全く会話などなかった。でも、一日一日たつうちに、言葉がなくとも、生徒一人一人の笑顔が、私にとってはりっぱな言葉になってきた。音楽の授業が大好きで、すぐ音楽にあわせ

する。さぼるという知恵がない。でもたまに突然あはれ出す。それは、自分が何か言いたい、自分の考えを相手に伝えたいけどしゃべれない。そのため、あはれるという行動に出るのである。すごく、かわいそうな事だ。私達は、言葉をしゃべる事をあたり前の事とし、悪口をいつたり、親に口ごたえをしているが、言葉をしゃべるという事を、もっと大切にすべきだと思う。世の中には近頃、自殺する子供が多い。理由は、いつもしょもない事である。私達の悩みなど、養護学校の子供こどもたちっぽけなものだ。みんな必死に生きているのだ。もつと命を大切にしてほしい。私は、これから後の人において、養護学校の生徒達の生き方、忘れないと思う。その他、親とくらす事のできない施設の子との出会いもあつたし、大学の先生との出会い友達との出会い、マイナスの面もあったかもしれないが、私はプラスの面の方が多かつたような気がする。

いろいろ話してきたけれども、

大学生活もあと一年。いよいよ就職を決めなくてはいけない。一応希望としては、音楽の先生になりたいのだが、はつきりいって勉強もあまりしていないので難しいことはほしい。私は、これから後の人において、養護学校の生徒達の生き方、忘れないと思う。その他、親とくらす事のできない施設の子との出会いもあつたし、大学の先生との出会い友達との出会い、マイナスの面もあったかもしれないが、私はプラスの面の方が多かつたような気がする。

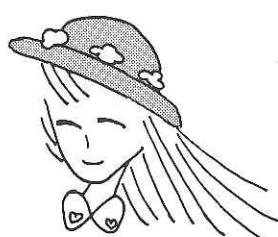
でも私は、いやだ。四年も大学を出て、毎日暇で家事して、ぼんやりくらすなんてとんでもない。給料もたくさんほしいし……。そして、生名でくらすという事に少し抵抗がある。島の人は、はつきり

「そんなに急いでどこに行くのか」



いつて口がうるさい。小さい島だから、噂は、すぐ広まる。いい事でも悪い事でも、真実でない事でいるのがイヤでたまらなかつた時もあつた。その点、都会は、どの人も知らない人はかり、悪くいえば何をしてもわからない。気楽に生活できる。私の母も含めて、考える事が狭すぎると思う。現在の青少年の心情も理解できないで、すべて型にはめてしまう。今と昔は違うのにと、いつも思う。一年後、私はどんな生活をしているのだろうか。十年後、どこに住んでいるのだろうか。きっと、瀬戸内海の島で、のんびりくらしているような気がする。人の噂を楽しみにして、母のようになつているのだと思う。

今まで生名を批判してきたけれども、生名でのんびりくらしてみたいという気持ちもある。都會にいると、空気は悪いし、大阪なんとかみんな急いでいる。





こんにちは東予日曜市です

東予市 首藤 忠明



首藤 忠明さん

○ 駅前の再開発

瀬戸大橋が開通し、四国が新時代を迎えるにあたり、東予市の玄関、予讃線JR王生川駅前を紹介します。

王生川駅前周辺三十万m²は、十一年の歳月を費して昭和五十二年に土地区画整理事業が完成しました。それまでには、賛否両論あり一時は反対派がダンプカーの前に座り込んだ事もありました。しかし、強力な推進派により現状のままで将来性に非常に欠けるということで行政を動かし、地元の人々の一致団結した「和」の精神で区画整理事業が成し遂げられたのです。



区画整理事業の完成に伴い、東予市の玄関にふさわしく王生川駅に特急列車の停車、統いて地域の方々の陳情と行政の協力を得て、駅前に警察官の派出所が設置され

河上辰男市長が書かれた「和」の文字の刻まれた記念碑が市民の行き交うメインストリートに面しています。

昭和五十四年七月第一日曜日のスタートを控え準備完了した五月の事でした。駅前商店街会長（山内宗芳）と実行委員長（野島史夫）両氏のゴーサインが出ません。実行委員のメンバーは不思議に思いましたが、その理由は、年に一度行うお祭りではなく、継続事業だから実行委員会のゆるぎない結束が何よりも望まれるからなのでしめたが、その理由は、年に一度行うお祭りではなく、継続事業だから実行委員会のゆるぎない結束が何よりも望まれるからなのでしめた。今振り返ってみると、十年間続いたのも充分な準備とスタッフの心構えが整ったスタートが良かったように思います。

区画整理事業の完成に伴い、東予市の玄関にふさわしく王生川駅に特急列車の停車、統いて地域の方々の陳情と行政の協力を得て、駅前に警察官の派出所が設置され

ました。そこで駅前商店街では、美しく区画整理された町にさらに活性化を求めて努力を始めました。台に毎月第一・三日曜日の午前中東予市民の人気を集めているのがふれ合いの広場「東予日曜市」です。いつも近隣の人達で賑わっています。

○ 日曜市とは

また、先日県下で一番古い日曜市だとテレビで放映されまして視察に見える方が増えました。商店街のグループの方、個人で来る方様々です。

そろって質問される中に「駅前商店街に日曜市をする事によって何のメリットがありますか」と聞かれますが、私は何時もましまつてお答え致しております。

「メリットを先に考えると行事は開催しない方がいいでしょう。まず成功しないと思います。現在は物より心の時代と言われる様に地域の方々がイベントを通じて心をふれ合い親しむ事によってイベントが成功し地域がイメージアップされて初めて行事が成功してメリットが生まれてくると思います。」

以来駅前通りの長さ百五十メートル、幅二十一メートルの区間を舞

台に毎月第一・三日曜日の午前中

実行委員会は日曜市終了後毎日開かれています。マンネリ化しない様常に新しい物に対しての模索、又何と言つても出店者と実行委員と日曜市に来るお客様との心のふれ合いを大切にしてきました。

特に出店者に対しても同業者が競合しない様に心くばりが必要です。又古くから来ている出店者を大切にし、記念行事の時には表彰をしています。

日曜市に入会すると出店する場所が決まりますが、当日休みますと場所に穴があき日曜市独特の雰囲気がうすらぎ困る事があります。出店者の業種によって申し込みが集中する場合があり現在では、アクセサリーの手造り品とか衣料品関係の申し込みが多い様です。

現在実行委員会では新しいイベントを考えています。日曜市では幅広い市民層に親しんでもらう為にチビッ子による日曜市写生大会を計画中です。子供達がふれ合いの広場日曜市に参加する事により親しみの心が育つて行く事が出来れば日曜市をイベントの場として発

展するのではないかと期待しています。

○ 日曜市から地域づくりへ

JR壬生川駅前広場は区画整理事業完成と同時に駅前商店街が広場の管理を委託されました。広場の中央ロータリーには東予市の玄関にふさわしく市のマーケを中心周囲は四季を通じて緑と草花を楽しめる様心掛け施設の保護と美化に努めています。

広場の将来について見直しの時期が来ていると思います。マイカーの急増によりバスの利用客が著しく減少した為バス停の問題JR利用者の駐車場と駐輪の問題等各方面に呼びかけて早急に検討しなければならない時期だと思います。

広場は公園化して市民の憩いの場イベントの広場とすることが望ましく思います。又駅裏に体育館。

中央公民館・図書館・郷土館等総合施設が完成しましたが市の中心街からの道路は利用者に不便をかけています。駅をはさんで早急に連絡道路が出来る事を望んでいます。このように新しい模索をしながら

レベルアップにつながり、人と人を結びつけ豊かな人材養成につながり地域交流が出来れば、目的が達成されると思います。そして、何よりも大切なのは、自分達の町をより良いものにしようという情熱でしょうね。

今後とも皆様の温かい御支援をよろしくお願いします。



日曜市の風景



写真とともに

新居浜市(田尾フォトサービス)

田尾忠士



田尾忠士さん

い。」と言うのがある。その道を三十年、四十年と歩んで来て、その間にいろいろ失敗を繰り返えし、それら経験の積み重ねが、成功につながっていくのでしょうか。

しかし、中には失敗を経験しない、名人芸たるものやる人がいる。写真の記念撮影においても、多大な人並べて一枚だけ写して済ませる人がいる。これは正に名人芸である。私などは最低三枚は撮りたい。いやもつと写しておく。何故かと言うと、目をつむつた人がいないようにと考えるからである。プロとアマチュアは、紙一重と言われるが、これはどの仕事、どの職業でも同じだ。写真界の巨匠、土門拳氏は撮影では、この出来が悪い時、プロとして、カ

益が高じて仕事となれば、写真家名利につきる。ある書家が言った言葉に「プロに成るのは簡単だ。一つの事を一生懸命やり通したらよいが、名人にはなかなか成れな

メラが故障でした。あるいは、現像所の機械が不調でした。では、通らないからなのだ。又、自分が五十本写せば、他の人はそれ以上写さないと自分以上のものは出来ないと言わされた。さらに、氏にアマチュアからの質問で、無駄になる程の枚数を写されるのは、それ以外に理由はと聞くと、氏はこう言われた。

「竹」についての写真を一枚発表するのに、会心の写真を一枚しか出来ない。毎年、カラー写真集「古寺巡礼」の補充撮影のため京都へ撮影に出かけているが、今年は今まで以上のものをと、一ヶ月程前に下見に行き、竹の葉の状態から今年は半月後が一番いいと見込みをつけた再び出かけ、三日も続けて竹林で撮影して帰った。たかが竹一枚の写真に、宿泊、自動車貸、フィルム代を合わせると何万円もかけたことになるが、私は満足したと。正に、プロである。

家の話を聞いた。その写真家は、「私の写真は、自然の風景や静物、花を被写体にしても、光線や影を生かして、その被写体と異った物に仕上げ、その被写体と芸術的に仕立てる。ある写真家に、植物、花だけを何十年も撮り続けている人がいるが、図鑑的写真を撮っている。ただそこに花があるから、そのまま写すのでは芸がない。」と言つた。しかし一方、次に話されたカメラ雑誌の編集長は、先程の芸術写真家の話の図鑑的写真しか撮らない写真家にふれ、「私は被写体そのままを、正確に写している写真家の方が、一般の人たちは、芸術写真家より名前をよく知られているし、価値のある写真である。」と言つた。人それぞれとも言える。後者である植物写真家に富成忠夫氏がいる。何科の何花と言えば、すぐ出してくるくらい多くの写真を写している。時々、雑誌や児童向けの本や花の専門誌を見ていると、氏の名前を見つけることもある。このように同じ写真でも目的によって撮り方が違つ

☆ 写真家あれこれ

ある写真のシンボジウムで写真

て来る。

☆ 建築写真について

建築写真でも、一般に建築写真と呼ばれるものは、建物が写っているものすべてを指すのではない。その目的によって、被写体である建物を選び、対象を限定したり、依頼されて建物について写真で語ることを目的としたものを建築写真と言いうらしい。私などが撮る写真は、建築を外観から美的感覚で写すから、周囲の風景とマッチさせて撮り、超広角レンズを使って

高速道路の橋脚
(土居町にて)

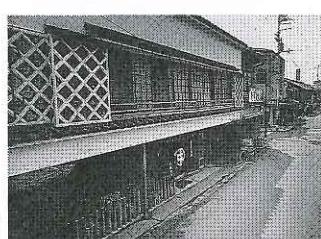
デフォルメ（自然の形を芸術的に変えること）させて撮影するので建築写真とは言えない。建築写真是建築学的な問題や美学まで広範な理解と見識が必要とされる。建築家の意図をよく理解して、写

真表現をしなければならない。建築写真は建物が出来るまでに、建物の計画時から写真が必要であり、敷地と周囲の写真が設計に必要とされる。最後に竣工写真、これが最後の仕上げ写真になるが、建築家の設計意図をどこまで理解して写すかが「カギ」になる。完成写真を撮影するのに、空間表現と質感を正確に表現すること、そしてボリューム感を表現できたら立派な完成写真になる。

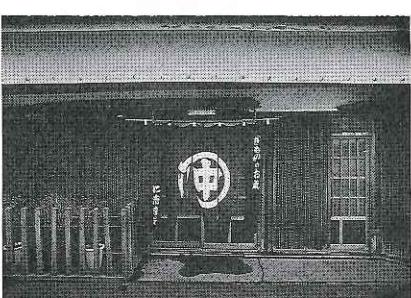
☆ 定点撮影のすすめ

ところで、私の町も十年二十年と過ぎると、昔の写真が今の風景と変わってしまった所が多い。それは記録写真の方法には、いろいろとあるが、まずは長期間撮り続けて始めて価値のあるものになる。方法の一つで最も簡単で確実なものに、定点撮影法がある。この方法を思いつかれて実行された人は、気象庁の定点観測船にヒントを得て、家族の写真を同じ被

写体、同じ位置、同じカメラで、毎年同じ日に写して二十年の記録を残した人が、いかにもしか撮れない写真を写したい。いくら技術があつても、有名作家でも、地元の者にはかなわない所があると思う。どうか皆さんも今から、地域の定点撮影をお始めになられることをお奨めして筆を置きます。



このような古い町並が
いつままであるだろうか
(新居浜市内で)



も多くの若い人たちが、この定点撮影を続けてほしいと言うことです。私自身今から一つのテーマで撮つても、二十年撮れるかどうか心配ですが、今後続けられるまでずっと撮りたいと思っている。それも、やはり地域をテーマに取り組み、情景や状況を入れたその土地の者にしか撮れない写真を写したい。いくら技術があつても、有名作家でも、地元の者にはかなわない所があると思う。どうか皆さんも今から、地域の定点撮影をお始めになられることをお奨めして筆を置きます。

真表現をしなければならない。建

築写真は建物が出来るまでに、建

物の計画時から写真が必要であり、

敷地と周囲の写真が設計に必要とされる。最後に竣工写真、これが最後の仕上げ写真になるが、建築家の設計意図をどこまで理解して写すかが「カギ」になる。完成写

真を撮影するのに、空間表現と質感を正確に表現すること、そしてボリューム感を表現できたら立派な完成写真になる。

住民の生命を守る村 ザわうち

(財)愛媛県まちづくり総合センター

豊田 涉

四月二十四日から二十八日にかけて山形県西川町、宮城県中新田町、岩手県遠野市・沢内村・盛岡市をめぐる県外研修を終えた。その中から、住民の生命を守ることを行政の基本理念とし、へき地医療で偉大な業績をあげた村で有名な、「岩手県沢内村」をとりあげてみたい。

「人間が人間らしく生まれ育ち働き暮すためには、自立・発達・連帯が必要です。自立とは、いつでもどこでもどんな場合にでも、病気や貧困や災害や老齢で嘆くことのないのが大前提となります。他人に負い目をもつたり、何かに気がねして生きたり、差別に耐えることは決して自立とはいえない。自らの人生を権利主体として生きることが自立です。そのためにはどうしても、医療・生活・教育・



(故)深沢村長
と
高橋さん



□ 沢内村の概要

岩手県の西部に位置する沢内村

は、奥羽山脈を境にして秋田県に接する高原性盆地である。面積は二八八・四七㎢で松本市とほぼ同じである。村の中央を流れる和賀川沿いの一・四五〇haの耕地に、稲作・夏いちご・りんどう栽培などが行われている。積雪は二メートルを超える豪雪地帯もある。

岩手県の西部に位置する沢内村は、奥羽山脈を境にして秋田県になりました。昭和三十二年に故深沢農村長が就任して数々の問題にとりくんだんです。当時、病院といふのは死亡診断書をもらう施設とうのは死亡診断書をもらう施設となりました。昭和三十二年に故深沢農村長が就任して数々の問題にとりくんだんです。当時、病院といふのは死亡診断書をもらう施設とうのは死亡診断書をもらう施設となりました」と高橋さんは語る。

この感覚でした。乳児の死亡率は県内で最高でしたが、今はその逆になりました」と高橋さんは語る。

深沢村長は先づ、地域課題の発掘をしようと村内を歩き話を聞くことが行なわれている。積雪は二メートルを超える豪雪地帯もある。

この感覚でした。乳児の死亡率は県内で最高でしたが、今はその逆になりました」と高橋さんは語る。

この感覚でした。乳児の死亡率は県内で最高でしたが、今はその逆になりました」と高橋さんは語る。

人口は四、八〇〇人、世帯数一、一〇〇戸。

□ 雪・貧困・病気の克服

まだ根雪の残る四月二十七日に、沢内村を訪ね、社会福祉協議会の

にまとめて紹介してみたい。

「一年のうち十一月から四月ま

での半年間は、雪のために経済活

動が疎外され、貧困や病気を招き

る保健活動は、沢内病院と健康管理課がその核となって包括医療体制の確立をめざし、時代の要請に応じたさまざまな活動が展開され

ている。昭和三十五年全国に先駆けて、老人六十五歳以上の無料診

療を行い、翌年には六十歳以上に引き下げるとともに、乳児にも実

施している。やがて身障者や母子家庭などの無料化へと広がってい

くのである。

この無料化による効用としては

①軽い段階で病気を治すようになつた ②自分のことだけでなく、家族全体の健康にも目がむくよくなつた、ということだ。

このほか、三十五歳から五十九

でいった。そして、雪の克服をと
いうことで、一台五百万円するブ
ルドーザーを購入し、冬期の交通

路を確保した。村の予算が一千万

円の時であった。夏には田畠の開

墾に利用し耕地を増やしていくた
めには人の手におえないが、必ず

自然は人の手におえないが、必ず

しもそうでないことをブルドーザー
の購入によって克服したのである。

昭和三十年代から取り組んでい

る保健活動は、沢内病院と健康管理課がその核となって包括医療体制の確立をめざし、時代の要請に応じたさまざまな活動が展開され

ている。昭和三十五年全国に先駆けて、老人六十五歳以上の無料診

療を行い、翌年には六十歳以上に

引き下げるとともに、乳児にも実

施している。やがて身障者や母子家庭などの無料化へと広がってい

くのである。

この無料化による効用としては

①軽い段階で病気を治すようになつた ②自分のことだけでなく、家族全体の健康にも目がむくよくなつた、ということだ。

このほか、三十五歳から五十九

歳全てを対象にしている一泊二日

の成人病検診では、村民がもれなく受けるようになってきており、

幼児から老人まで一体化した管理が行われていることは素晴らしい。

沢山村は、お金があるからいろいろできるんですねとよく言われるそうだが、それはやむにやまれぬ状況の中でのことであろう。

それだけに予防活動・健康活動には力を入れた。病気を治すのみではなく、病気にかからないようにするのが病院の役目であることから、病院長が健康管理課長を兼ねているところに伺える。



沢内病院

□ 村の活性化の実現

沢内村が現在、最重点に取り組んでいるのは、村の活性化の実現である。

六十五歳以上の高齢化率が十八%を超えていく状況にあつて、過疎化に歯止めをかけて若者をひきつける故郷づくりは緊急課題であろう。

高橋さんは、「高齢化といふことに對して老人にひけ目をもたせてはいけない。高齢化は社会福祉だけの問題ではない。子供たちをいかに地域に定着させるか。

東京をむいた教育だけでもいけない。地域をみつめる子供を育てていかなければ」と強調する。今後に期待したい。

□ 世代間交流集会

子供から老人まで村の誰もが参加し、日頃考えていることや悩んでいることを率直に話そうという集いである。個人個人が持ついる生活課題、福祉課題を地域全体の課題に高め、今何ができるのか、将来の方向は何かなどを考えるものだ。毎年同じことであっても広く意見を聞くことは必要な事であ

らう。

□ 老人人生樂園

ふるさとの歴史を学び勉強することを共通テーマとして、老人自身が主体となって運営している。

例えば、スポーツ、郷土芸能の伝承、郷土の文化、手芸など。与えられたものではなく、自分たちが企画していくことの大切さを再認識。講義講座形式のないのがいい。

□ 共に生きる

福祉共同作業所

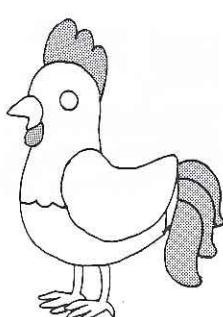
福祉サイドからの村づくりへのチャレンジとして昭和六〇年に開所。ハンドディのある人もない人も共に生きる地域づくりをめざし、中でも「ふるさと宅配便」で全国に沢内の心を届けている。福祉面からの宅配便は、全国ではじめて何時にも歩き、隣町の病院まで通ったであろう村の道を、私たちの車は一時間もかけず通り抜けてしまった。その頃の思いをいつまでも大切にした沢内村であつてほしいと願いながら、村を後にした。

かつて沢内村にとつては重荷となっていた雪。今それを活用して研究、販売などを通じた村おこし

に力を入れている。地域とその風土の特色を活かしたよい例である。

高橋さんが「沢内には寝たきり老人が少いし、明るい老人が多いです。生きがいは健康であることですよ」と言われた。生命を守ること、それは政治の原点であるだけではなく、生きていくことの原点でもある。そして、地域をよくするのは、やはりその地域に住んでいる人々なのだとと思う。

三十数年前、病気の子供を背負つて何時にも歩き、隣町の病院まで通つたであろう村の道を、私たちの車は一時間もかけず通り抜けてしまった。その頃の思いをいつまでも大切にした沢内村であつてほしいと願いながら、村を後にした。



“飯田、美しきかな…”

(財)愛媛県まちづくり総合センター
石川元英

「オ、ワンドフル。」この一声が
とびだすほど、インパクトのある
信州・伊那谷。

日本列島の中央部に位置し、中
央アルプスと南アルプスの間を流
れる天竜川両岸の河岸段丘の上に
広がる。この伊那谷の政治・経済
文化の中心都市が、この度、県外
研修で訪れた長野県・飯田市であ
る。

りんご並木と

人形劇カーニバル

この飯田市は、一般にりんご並
木と人形劇のまちとして、全国に
知られている。

●りんご並木と
人形劇カーニバル
この飯田市は、一般にりんご並
木と人形劇のまちとして、全国に
知られている。

● 美術博物館

「文化のある町を目指し、文化
がなくては若者の定着、企業の定
着などあるはずがない。」という考
えのもと、文化性豊かな町づくりを
押し進めている。その一貫とし
ての人形劇カーニバルは、昭和五
年から毎夏開かれてき
て、昨年十年目を迎えた“人
形劇の五輪”と呼ばれる四
年に一度の世界人形劇フェ
スティバルが行われた。ア
ジア初で、交流三十ヶ国
(三十劇団)を含め、約二
百五十劇団、二千人、観客
数七万人の大盛況のうちに
幕を閉じた。

りんご並木は、昭和二十二年の
大火で市街地の大半を焼失した時、
この悲運から復興するため、地元
の中学生が「りんごの実る明るく、
美しい町にしたい」という想いか
ら市内の中央大通りの中央分離帯
に植えたものである。

現在でも、この精神が受け継が
れ、毎年実る赤い実を誰一人とし
て取るものがないそうである。

「美しい心が美しい街をつくる」
といった理念が根づいているので
ある。実際、りんご並木を見た時
の感動は、ひとしおであった。

そして、もう一つ飯田市を語る
場合、この人形劇カーニバルがあ
る。

分散型で公民館・集会所な
ど約百二十ヶ所、どこでも出張公
演の形で行われ、市民、行政、さ
らに劇人が一つになり町全体がこ
のイベントにつつまれるのである。

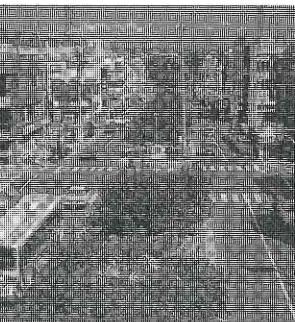
この世界人形劇フェスティバル
を機会にフランスのシャルルビル
メジェール市との国際姉妹都市を
結び、国際化時代に向けても町全
体で歩みだしている。



飯田市の、

この建物のとらえ方として、この
伊那谷全体が“美術博物館”であ
り、その象徴の一つとして存在し
てている点に特徴があった。それが、
建物の屋外にも人形劇の催しが可
能な設計になっていた所などにも
表われていた。市行政のソフト面
での事業展開の一つである。

● 興村塾



二十一世紀のむらづくりを担う
リーダー養成をめざす“興村塾”
もそのソフト事業として生まれて
きたものである。昭和六十一年、
五月に始まり、本年三月で三年間
の第一期を終えた。さらに、今後
二期三期の塾生を募集していく、

十四年から毎夏開かれてき
て、昨年十年目を迎えた“人
形劇の五輪”と呼ばれる四
年に一度の世界人形劇フェ
スティバルが行われた。ア
ジア初で、交流三十ヶ国
(三十劇団)を含め、約二
百五十劇団、二千人、観客
数七万人の大盛況のうちに
幕を閉じた。

身の原 広司
氏(東大教授)
の設計で、南
アルプスの山
々をイメージ
した非常にユ
ニークな建物
は、飯田市の
また新しい顔
になるである
う。

「農」を学びながら地域づくりに共通認識をもった仲間を育てていこうとしている。この塾生の中には、行政サイドの参加もあり、住民と行政とにどうしても生じる“ミヅ”を埋めることにも役立っている。

● 生きている“いいだ”

その他、飯田市には様々な活動が見られる。“列島どまんなかの会”と称し、日本列島のまんなかに位置する同志が集まり、「ロマンと感性の遊び心をこめて地域づくりをしよう！」と伊那地方・豊根などの自治体学会会員を中心を集めり会合を開いているし、“天竜川流域を考える会”と称し、国・県・住民などあらゆる角度から、皆対等な立場で自由に話し合われている。さらに“探町会”という市民グループによる、早朝に市街地を歩き、自分たちの住む街の居住環境や将来へのまちづくりを考えようといったグループetc…。

このように、常に自らの足元を見つめ直し“いいだ”的再発見、これからのが“いいだ”を市民、行政一体で常に考え続けておられる。

この地域一体、住民・行政の二人三脚の形でのまちづくり進行の為には、両者のパイプ役的立場の人達が必要である。その一役を担っているのが、今回、お会いした人達ではなかろうか？

まず、“興村塾”的仕掛け人で、

飯田市役所企画課、飯伊地城市長

村園協議会次長の高橋寛治さんと“日本列島どまんなかの会”会員であり、飯田市役所企画課係長の伊藤正好さんのお二人である。地

域のなかでまちづくりを進めていくためには、常に「人に視点をおく」ことを第一に考え、与えられ

◀ 高橋さん
と 伊藤さん

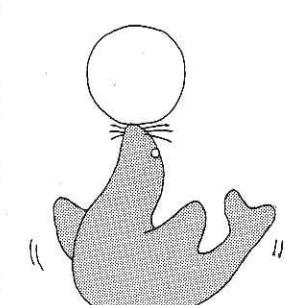


農政課の方
と 片桐さん
(右)

の会”会員である。松下重雄さんのお話しが印象に残っている。ギフチョウという、人類出現以前から生息しており、日本でも本州の一部にしか生息しない貴重な蝶が、心ないマニアの乱獲、土地開発計画で生存が危ぶまれている。この問題に、小学生から老人クラブまでの地域住民の温かい理解・手助けへと拡がってきている。蝶を切り口に、蝶の命を守るという些細なことから地域住民の“輪”へとお話しであった。

もう一人、酪農農家の片桐與一さんである。飯田行政の特徴の一つである“集落複合経営”的実践者の一人である。私には無縁の農業のお話ではあるが、数々の問題に対しても、皆で集まり、酒を飲んでおられた。

た状況に嘆かず、与えられた状況のなかで、住民と共に考えられる場をつくる。そのことが、双方の“ミヅ”を埋めることになるし、解決の糸口をつかむことになる。自ら積極的に住民の中に、身を投げおられた。



『柳川堀割物語』

—小さな町の自主上映頃末記—

大西町役場 新居田 昌彦

「みかんは安いし、ドックもある
んな状態じやし、さっぱりいかん
にあ……」そんな声も聞かれ、大
西町のかつての“みかんと造船の
まち”的イメージも現在ではだん
だんと薄れかけようとしている。

そうした中、大西町職員組合
(河野正文委員長)では、いま行政
マンとして我々に求められてい
るのは何か、職員の活性化を引き
出せる方策はないものかななどとあ
れこれ模索するうちに、柳川市の
一族長が「人間と水との関りあい」
「自然との調和」「住民と行政マ
ンとの関りあい」を大切にしつつ、
水郷柳川の復活を果した記録映画
の評判を聞き、ひとつの試みとし
て、映画を観た一人ひとりが「何
かを感じ何かを得られる」であろ
うことを期待してこの『柳川堀割
物語』の上映を企画することになっ
たのです。

職員への呼び掛けを始めて、そ
の関心を引く内容に加えPRの成
果もあってか、職場全体に大きな
反響を呼ぶことが出来たのですが、
それでも衰れゴミ箱行きとなつた
パンフレット数知れず…………とに

かく一人でも多くの職員を集める
ことが出来ればと、長時間上映を
配慮しての弁当及び上映中の心理

的効果を期待してのポンジュース
を準備し当日を迎えたのです。二
月二十三日午後五時三〇分会場と
なった中央公民館では用意した五
〇食の弁当がたちまち捌け荒れて
追加注文という繁盛ぶりとはなつ
たものの、単なる弁当の食い逃げ
ではないか、途中退席はないかと
心配する中上映開始…そして出席
者の反応を気にしつつ二時間四十
分、午後八時半過ぎに無事終了。

感想を口々にして出てくる仲間の
様子を見ると、一人でも多くの職
員に何かを感じるきっかけを作り
たいという我々の目的は、ひとま
ず果たされたようだ。その後の
反省会では……

- ・あれだけ多くの職員が集つた
ということ自体に感激した。
- ・意外な職員が関心をもつて來
てくれた。
- ・映画の内容程度であれば、う
ちの地区の共同作業『役』と
いう活動も捨てたもんじやな
い。

そこで我々は感じたのです。今
こそ、職員は行政マンとして普段
忘れかけようとしている住民との
心のつながりに重点を置いた行動
が必要ではないか。また、その住
民も現在の物質的充足の中での、何
か不安、不満を感じているのではないか
といふ感覚をもつて来てくれたのである。
そこで、どのようにしたらいいか
確認も約五〇名を数えひと安心。

感想を口々にして出てくる仲間の
様子を見ると、一人でも多くの職
員に何かを感じるきっかけを作り
たいという我々の目的は、ひとま
ず果たされたようだ。その後の
反省会では……

私たちの使命はおのずと理解される。



【プランニングに机はいらない。
必要なのは足と目、土地の人に対
する耳と口、そして何よりも土地
の人の気持ちになりきることであ
る。】という映画中の広松 伝さ
んの言葉は、一人の行政マンが
“まち”全体を動かしたという事
実とともに、迫力と重みをもつて
脳天に突き刺さるものでした。
何はともあれ、まず自分自身が
行動してみるとことでしょう。すぐ
に硬直化しやすい我々普段の頭に
は、今回のような効果的ショック
療法を今後も続けていくことが必
要のように思われます。

『楽しく“のむら”を語る会』



(財) 愛媛県まちづくり
総合センター

井 上 謙 二

去る三月十八日、野村町の有志十七人が一堂に会し、自由にそして本音で「どんな野村が良いのか。自分はどうしたいのか。」を語りあつた。

「外から見た野村」ということで、双海町の若松進一さんにも出席していただき、アドバイスを受けながらの会となつた。

□語録□

◆司会者

ここにお集まりいただいたのは、それぞれの

「何とかしなくちゃ」という気持ちの表れだと思う。内容としては、「ム

ラおこし・地域づくり」

といった方向で進みたい

が、堅苦しくならず、楽

しくやりましょう。

話の結論づけとかもやらないし、できない。

「自分にとってのムラおこし」といったことを考えたい。

「元親」行政の取り組みが遅れているという声を聞く。施設整備を含め、久万町のような総合的・将来的な展望という意味で。

「玉田」役場であれ誰であれ、いい町にしたい、豊かな町にしたい

という意識を持つ人が、一人でも増えることが先だ。

「名本」住民がやる気でないところに行政がいくら持つていってもダメ。川の改修でも、コンクリートの水路ではなく、川で魚と遊ぶ気

待ちを大切にしたい。

住民の要望がいかせる施設であつてほしい。そのためにも、心の持ち方が大事になってくる。

◆若松さん

「黒河」大野ヶ原は自分たちが創つたムラだから、全部話し合つてやつてきた。

自分たちでやるだけやってから、行政を頼るべきだと思う。

「篠原」今は、自分の集落をどう良くするかだけを考えている。

それぞれの地域が良くなり、活性化することが、町の活性化につながると思う。

「山岡」さっきの川の改修の話ももつともだ。そのためにも、技術的なことや環境の面など、もつと勉強しなければいけない。

「佐藤」ムラおこしはそこに住む人がやることだというのは分かる。

地域づくりはボランティアの面もあると思うのだが……。しかし、楽しくないと長続きしない。

「大徳」ムラおこしと、観光・カネというイメージの人が多いのでは……。

そうではなくて、自分たちが楽しむところで暮らしたいということを考えている。地域に後継者がおり、生活できて楽しければいい。

◆若松さん

田舎暮らしの楽しさを再発見すること

がムラおこしだと思う。

野村に何人いれば町が元気になるかだが、百人に一人いればいい。まず自分自身、一人が変われば町も変わる。

誰であれ、気が付いた人が、気が付いた時に、気が付いた事をやる。それしかないのでは?

これだけの人でこんな話ができるのはすばらしい。そこで、ではどういう町にするのか、といった話がされれば充分だ。



◆司会者

21会のことを話してほしい。

「土居」これまで堅苦しい会か酒飲む会しかなかったので、コーヒーを飲みながら語れる気楽な会ということでやっている。
原宿展・全国の地方紙展・蘭展などをやり、現在は坂本竜馬の脱藩ルートを追っている。

いずれも町民の関心を高めていきたいという気持ちでやっている。「大本」21会でやってきて、イベントに至るまでの過程で得た知識や行動力が大きい。
また、障害者からの地域づくりも考えていいきたい。

◆司会者

今の21会にも外に出ていた人が多いが、やはり外から見る目も必要だろう。昨年のセンターの研修に参加した人から話を聞きたいのだが……。

【三瀬】綾町では、自治公民館の活動がしつかりしている。一方、行政も地区回りをして、住民との対話につとめている。このように住民と行政のタイアップが野村で必要だと思う。

一人一人が考え、自分のためにやるべきところから始まると思うし、役場の中でも話し合う場が必要だ。研修で「人」に接したこと、言葉では言えない何かを感じた。

◆若松さん

外から見た野村ということで一言。先日のブナの問題は大野ヶ原だけの問題ではないはず。ブナを何のために残すのかといった話し合いがなされ、価値観を見直すことが大切。

野村の人口は適性規模だと思う。

『楽しく“のむら”を語る会』に参加した皆さん

1	若 松 進	[ゲスト]	双海町役場
2	藤 本 一	[司 会]	野村町役場
3	土 居 砂 一	21会	土居建材店
4	佐 藤 豊	"	佐藤文具店
5	河 本 敏	"	旅館、塾経営
6	宮 本 純	"	指圧、鍼灸師
7	岡 本 澤	"	岡澤理容店 (PART IIのみ)
8	谷 本 勝	"	タニヤ呉服店 地域づくり研究会議
9	名 大 德	"	農業 長谷地区
10	大 篠 元	"	左官業 道野々地区
11	岡 親	"	農業 "
12	谷 田 孝	"	建設業
13	玉 黒 三	自在舎	少年自然の家
14	黒 兵 高	起土愛楽	農業 大野ヶ原地区
15	兵 大 隆		教育委員会 地域づくり研究会議
16	大 岡 三		教育委員会 地域づくり研究会議
17	岡 本 三		役場
18	山 宮 三		役場 地域づくり研究会議
19	山 本 山		まちづくり総合センター
20	井 上		"
21			"



面積が広いのは、それぞれの地域
が自立できる、独自性を持てる
いう利点がある。

この会は、連合体や組織でなく、
ネットワークされた連絡会でいい
と思う。それぞれの個性や力が発
揮できるのが基本だ。

これから取り組みの中では、
①何をするにしてもナンバー1をめ
めざそう。

②何でもいいからオンリー1をめ
めざそう。

③プラス1が必要。活動のワクを
取り戻して自分に戻ったとき、野
村の住民だという自覚を持つ。野
村のために何ができるかという意
識を持っていれば、町はどんどん
良くなる。

◆司会者

外に出るとき、とかく現象を見
てきて後に続くものがない。人に
会って、その考え方なり生き方を
学ぶことが大切だ。

「谷本」商工会青年部でも研修の
話が出ている。私も海外などに行っ

て考えが変わったし、外出するこ
とは必要だ。

—以下省略—

□反 省□

計画から実施までに何と三ヶ月
を費やしてしまった。というのも、
場所を野村に決めたものの、誰が
どういう気持ちで頑張っているか

が分からず、人に会うことに時間
がかかったのだが、それでも、話
の煮詰めが甘くなってしまった。

また、「この会は何のためにや
るのか。」ということが自分で十分
整理できないまま動きはじめたた
め、そのことを理解してもらえる
人、一緒に動いてもらえる人がで
きないまま当日を迎えてしまった
という反省も残る。



□展 開□

そのような試行錯誤のなかで、
ゲストの若松さんや司会者、そし
て何より、しっかりと考へて頑
張つておられる当日の参加者の皆
さんに助けられて、ひとまずは終
わった、よう見えた。

しかし、この会 자체が、野村で

頑張っているそれぞれの皆さんが
元気になり、その活動がよりすば
らしいものとなるための、一つの
機会であるべきものだから、まさ
にこれから始まったといべきも

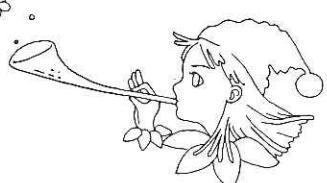
のだろう。

野村にもう一つ組織ができた、
というのではなく、互いの意見交
換・情報交換の場として、ネット

ワーキングの現場として、利用し
たい人が、利用したい時に、都合
のいい形で利用しあえるものでい
いのではないだろうか。

そんな様子を心強く見つめてい
よう。そして、時としては仲間に
も加えていただこう。
そして、折にふれては、より元
気になるために、より有意義に生
きるために、より刺激を得るために
にネットワーキングを続けようで
はありませんか……。

その後も、21会は「坂本竜馬の
脱藩の道を歩こう89」を一般に呼
び掛け、町内外から参加した八十

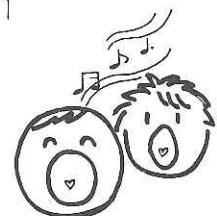


高らかに まちづくりの想い

—「第2回卒論参観日」報告記—

(財)愛媛県まちづくり総合センター

山本 幹 男



送辞から抜粋して紹介したい。

「宮本さん、近藤さん、二年間

本当にご苦労様でした。

宮本さんには、その公明正大な人柄、常に背筋をピンと伸ばしたりからは、静かなるがゆえの安心感と、急ぐなよと言葉抱強さを感じさせられたものです。

又、豊富な語学力と鋭い洞察力でもって、センターの出版物の影の編集長として、目を光させていたときましたし、いつもユーモアと笑顔で、精神的な安らぎを与えていただきました。

一方、近藤さんは、まさにネットワークの人であり、その行動力と思慮の深さは、ネットワークの一見本として、私たちが、今後大いに見習わなければならないところであります。

又、お会いした人を本当に大事にされる方でもありました。電話でのあいさつやお礼状を絶対に欠かさないこと、そして会話のはしづしからも、人柄がしのばれ、そのことが、幅広い人脈やネットワー

クにつながったのではないでしょう。

更に驚かされたのは、知識の深さ、着眼点の鋭さであります。しかも、単なる知識としてではなく自分の主觀を持って見ることをする人がありました。

人間、一人として完璧な人はいないでしようが、かの信玄侯の風林火山に当てはめますと、林のごとく、山のごとき宮本さんと、風のごとく、火のごとき近藤さんと言うことが言えると思うのです。

◎ 「卒論発表」要旨

それでは、以下お二人の卒論の要旨をご紹介する。

☆ 宮本さんの卒論

「毎日がまちづくり」と題し、ヘッドワークと独特の感性で、自分の思いを訴えるように話された。

① 時代認識

今日の社会と言るのは、モノがなくて困っているのではなくて、モノもカネも一杯有り過ぎて行き詰まっている。毎日の暮らしの中

春うららかな四月八日土曜日の午後、卒論参観日実行委員会の呼び掛けにより、第二回卒論参観日なるイベントが、松山市の道後保養所「えひめ」で華やかに開催された。この参観日は、本年三月まで、当まちづくり総合センター研究員として、又、県内地域づくりの助つ人として活躍された宮本清幸さん（津島町役場）、近藤誠さん（東予市役所）のセンターでの遊学の成果を参観するとともに、お二人の門出を盛大に祝福し、激励するため開かれたものである。

お二人の二年間に培われたネットワークから、当日は、「えひめ地域づくり研究会議」の有志の方々地元の応援者等、四〇有余のまちづくり人のご参加をいただき、又

- 一 開会のことば
- 二 来賓あいさつ
- 三 卒業論文発表
- 四 質疑応答・講評
- 五 O B 激励のことば
- 六 留年証書授与
- 七 記念品贈呈
- 八 在校生送辞
- 九 新入生紹介
- 十 閉会のことば

◎ 卒論発表者紹介

まず最初に、お二人のセンターでの人となりを、当センター井上研究員が心を込めてうたい上げた

宮本さんです。



で、使われなくなつたお爺ちゃんに聞いたらええぞ。このものを、家から離れた遠いところへ捨ててしまふ。遠ざければ自分とは関係がなくなると錯覚する。この考え方一つ問題だと思う。自由社会が進んできた現在、共生と言うことが一つのテーマとなりつつある。共生を考えない生産は、自由社会が首を絞めることになる。地球が有限であることを考えられないと地球人も同じ運命になる。

② 組織、舞台演出

組織はあってもなくとも、基本的にはどちらでもいい。とにかく他人のことばかり言つて、「私はこうしたい」を言わない人たちの集まる組織だったら、何もできな

いし面白くない。「私はこうするんだ」と言う人がいたら、きっと素晴らしいことになる。

次に、本物の舞台を演出しようとするならば、主役だけではダメで、隠し味、名脇役の存在が見逃

せない。そのことなら、あそこのお爺ちゃんに聞いたらええぞ。これなら、あの人と相談するとうまく行くとか。隠し味の場所をつくつてうまく演出することが大事である。

③ 職人技と時代感覚

まちづくりと言うものは、毎日がそうなんだから、いいお酒をつくる杜氏とか、いい壁をつくる左官と同じで、言つてみれば職人技なのかも知れない。そういう磨き上げられた伝統の技と、時代の技術と言うか時代感覚と言うものが一緒にになって始めて、時代に耐えうる新しい伝統が、生まれていくのである。

④ 情報と知恵

情報と言うものは、その人が動いて集め、動いて活かすものである。又、知識にはノウハウとノウフウと言う二つの知識がある。われたことに自分で答える知識（ノウハウ）、もう一つは、「そのことなら、あの人と聞いてみたらええぞ」と言って、人を紹介できる知識（ノウフウ）である。

⑤ つくること、つかうこと
発想と言ふことで、ふるさと創生一億円で何かをつくると言うことがある。新しいモノをつくる時は、一億円は一億円の価値でしかないが、今あるものに一億円をつかうとなると、いろいろな事柄が生まれてきて、非常に大きな価値を生むことになりする。

⑥ ヒューマンスケープ

今、まちづくりの中で、デザインが注目されている。風景とか音風景とか言つても、旅をして訪れて一番印象に残るのは、そこで出会う人々であり、一緒に行つた連れである。風景も音も、そこにヒトがいなかつたら、ただの絵に描いた餅になる。まちやむらのデザインも、結局は、人の風景によってでなければ本物にならない。暮らしを離れて文化はないし、暮らしが離れたところで芸術を言つてもダメだ。センターの宮本所長のことばを借りれば、

地域の元気はくらしの元気くらしの元気は元気な元気な元気私はくらしの元気

くらしの元気は地域の元気となる。

⑦ まちづくりとは？

要は、「私はこうしたい」がコトの始まりで、そして、まず自分が動く。こういった辺りでしょう。

☆ 近藤さんの卒論

自分のまちづくりへの高まりはネクタイを外して、地域に積極的に入っていくことから始まつたとフットワーカーとして、県内をかけ回つた熱い思いをビンビンと訴えた。

① まちづくりとは？

概念整理は十分にできていないが、今のまちづくりは、キーワードはDの時代、デザインの時代だと思う。自己実現のまちづくりである。生きていることの価値を如何に見つけるか、自分の心自身を如何にデザインしていくかである。



近藤さんです。

スペインの
モンドラゴ

ンデ聞いたアリエタ神父の言った
「閉鎖された自由の中で、如何に
自分を発見し、自分を發揮してい
くか」だと思う。

まちづくりの仕掛け人は、ある意
味では、まちを良くしていく医者
である。「あいつがいなくても、
素晴らしいところだ、暮らしそよ
いところだ」と言われるような、つ
くるだけじゃない、心を含めた総
合的なデザインをキーワードに活
動していきたい。

② 活動から感じたこと

センターでは、フットワークを目
生かしたネットワークづくりを目
指し、自分は、それをすることが
できたと思う。人との出会いは、
自分で求めていかなければダメで
ある。足を使い、本音で話し合う
ことができないと、本当の情報は
得られない。いろんな所にそういう
人がいれば紹介しやすいが、書
物やテレビ等の情報では紹介しず
らい。そのためにも、常にいろんな
人を知っておくことが大事であ
る。

③ 心に残った人・地域

まずは、今年の三月の景観シン
ポのメンバーの人たちだ。先日、
反省会をやったが、この人たちは
このシンポを今後どう展開してい
くか、熱心に議論された。通り一
遍の反省会ではない、将来につな
げていく会となつたので印象に残っ
ている。ついでは、トイレ文化研究会の
中で、大野が原のトイ
レについて地元の
人と交流したが、松
山で考えていたのと
テーマや問題点で大
きな意識の変化が出
てきた。非常に有意
義であった。こうい
う活動を通じて、公
衆トイレは、果たし
て地域住民のものに
なっているか、もし、なつていな
ければ人を迎える心の現われるよ
うなものをデザインしたい。

他にも沢山の人たちにお会いし
たが、これらの人々に教えられたこ
とは、感性を磨けと言うことであ
る。いいものはいい、と言える感



性を磨いていきたい。ここでいい
と言うものは、中央に持つて行つ
てもいいと言われるようなものを
作ることが大事である。

④ センターに残す言葉

センターは何のためにあるのか
と言うと、それは、地域が良い暮
らしをし、良い町になつ
ていくことを手助けす
ることであるが、何を
もつて、その評価とす
るかと言うと、それは、

センターの業務を通じ
て、あるいは、その地
域に入つて、いろんな
人を巻き込んだ活動の
中から、関わつた人が
地域の中で地域の問題
を自分の問題としてやつ
ていけるか、目覚める
分かることを偉そうに言うだけ
でなく、分からることは分から
ないとして、分からぬからこう
いうことを知りたいと言ふことを
根本に置いて、今までつくつたネッ
トワークを広げてみたい。

⑤ 自分自身への提言

住民に触れるときも、やさしい
言葉で接し、泥にまみれて先頭に
立つて行きたい。個人ベースでは
いろんな場づくりを目指すとともに、
ないものねだりはせず、なけ
れば自分なりにつくればいいと言
う考え方で、ないからの挑戦をして
いきたい。

⑥ 地元への思い

わたしは、いい意味も悪い意味

でも地元が好きであるし、地元を
良くしていきたい。たとえば、コツ
ブを綺麗にしようと思えば、内と
外から磨き続けなければならない
が、内は自分で磨き、外は、今ま
でのネットワークした人たちを始
め、磨いていただけの方を沢山つ
くつて磨き続けていきたい。そし
て、魅力ある人（恋人）が沢山い
る町、情報発信のできる町を目指
したい。

⑦ 地元への提言

人がいくら出でたかではなから
うか。又、センターは、このよう
な人が気軽に覗けて、まちづくり
で疲れた心に、銳気を与えるよう
な場所であつてほしい。



INFORMATION「耳からの地域づくり情報」

当センターでは、地域づくり情報の収集のため、いろいろなシンポジウムや講演会等に参加しており、そこで講演された方々の録音テープを、下記のようにストックしております。この人はどんな話をするのだろうか、聞いてみたいと言う方は、ご遠慮なくお申し出ください。無料で貸し出しいたします。又、ビデオのストック（VOL 9 参照）もあります。

年月日	講師名	所 属	演 題	時 間
S 62. 5.25	出雲 神吉	(株)ソフト	時代予測のデータから見た中島の繁栄と行政	120分
S 62.11.14	西尾 勝	東京大学教授	まちづくり人・人・人	60
S 62.11.18	溝口 薫平	湯布院玉の湯旅館 社長	湯布院のまちづくり	90
S 63. 4.15	小松 光一	千葉農大教官	生名村での講演	120
S 63. 5. 7	矢幡 治美	元大分県大山町長	大山町のまちづくり	120
S 63. 6.11	笠木 透	フォークシンガー	ただ生きているなら文化はいらない	120
S 63. 6.12	藤原 洋	島根県吉田村参事	村中を博物館にする事	90
S 63. 8. 9	長崎 福三	日本鯨類研究所専務	海・暮らしの中で考える	120
S 63. 9. 3	亀地 宏	日本経済研究所研究部長	私の人生とまちづくり人との出会い	90
S 63. 9.16	山下 惣一	農民作家		120
S 63. 9.29	小山 智士	ミニ独立国際連合事務総長	21世紀に向けたふるさと感覚で、農村は生き残れるか	120
S 63.10.29	伊藤 善市	東京女子大学教授	過疎地域の再生と活性化	60
H 1. 2. 5	和田 芳治	広島県総領町職員	ひとが輝き、まちが輝く	90
H 1. 2.11	三田村和彦	ワコール宣伝部長	C I 戦略事例研究	60
H 1. 2.11	東 俊雄	ミノルタカメラ広報課長	"	60
H 1. 2.27	日下 公人	(社)ソフト化経済センター専務理事	21世紀の世界と日本	90
H 1. 3. 3	森戸 哲	地域総合研究所長	地域デザインの時代	60
H 1. 3. 4	田端 修	大阪芸大助教授	景観からのまちづくり	120
H 1. 3.25	二瓶 長記	(株)タップクリエイト代表取締役	生活文化を核とした地域づくりと地域リーダーの条件	60
H 1. 4.16	河畠 登記	五十崎町づくりシンポの会	暮らしの中から町づくり	60

(お申し込み先) 〒 790 松山市道後一万 1 の 2



(財)愛媛県まちづくり総合センター

☎0899-25-5557

美しい人たちによる “女性フォーラム'89いわざ”

女性フォーラム実行委員会

松浦道代



桜の花の残る岩城島で、去る四月十六日、
“島・女性・ふれあい”をテーマに女性フォー
ラムが開かれた。講演者・提言者・

司会と全て女性でということで企
画され、島内だけでなく越智郡を
中心に島外の婦人団体や村おこし
のグループなどへの呼びかけに応
じ、約二五〇名もの参加があり、
熱い大きなふれあいの輪ができた。

総合司会にNHK「イブニング
ネットワークえひめ」の松本陽子
アシスタントを迎える、まず主催者
である実行委員会浦安玉枝会長に
よる「女性特有の感性で島を見つ
め、ふれあいの中から地域づくりを考えてい
こう」という趣旨説明の挨拶の後、五十崎町
のまちづくりシンポの会の河原登記さんによ
る「暮らしの中から町づくり」と題した基調
講演があった。

自分の住んでいる所をステキな町にしたいと
いう思いを持つことが地域づくりの第一歩で
あること、やりたい人がやりたいこ
とをやりたいようにやり、その後仕
事もするという原則に基づいて活動
していること、心と体が元気で生き
生きと行動できる美しい人が、内外
への美しいネットワークを結びながら
美しい自然を作り出している実
践活動の報告がされた。また、地域
づくりは家庭の中から日常的にもで
きるという例で、合成洗剤の悪影響
や生活排水の処理方法の紹介があっ
た。町づくりはむずかしいことでは
なく、誰にでも楽しみながら休みながらでき
るということを、わかりやすく話された。

午後からのパネルディスカッションでは、
コーディネーターの高岡ミエコさん（県農業
大学校講師）を始めとし、地域年令の異なる
た五名のパネラーによる発表が行われた。

- 一、藤本喜久子さん（吉海町商工会婦人部長）
結婚して都会から島へ住み、友人たちとの
ふれあい助け合いの中で今まで頑張ってきた
こと、これからの大手企業の進出にどう対処
し子や孫に引継けばよいが課題である。
- 二、井手サツミさん（玉川町社会教育主事）
外から見た立場で岩城島の印象を語り、地
域づくりは人づくりという理念に基づいて、
日常の学ぶ姿勢や遊び心から外へ出て活動す
ることの大切さを強調

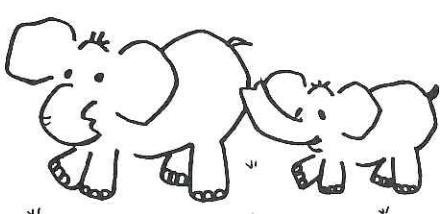
三、吉田光枝さん（関前村夢俱楽部）

Uターンし帰った親元での村の暖かさ良さ
を外へ向けてPRしていくことや、夢俱楽部
で若者との交流場所を求めるなど、何事
もトライ精神でやつ
ていただきたい。

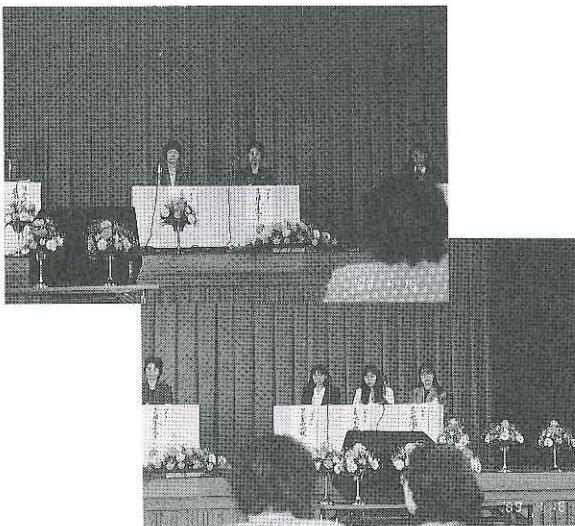
四、池本敬子さん

（生名村出身大
学生）

島の人は、出会い
が少なく島のことしか身近に感じられない
ので考え方が狭くなり、特に女性は口
うるさく噂好きである。しかし、人の良



えひめ地域づくり研究会議



いのんびりした海の見える島で家庭を作りたい。外へ出なければふれあうことのない養護学校訪問で学んだことなど、外へ出て改めて感じる島の良さ悪さを語った。

五、黒瀬久美子さん（岩城村日赤奉仕団）

結婚を機に島の人となる。あるがままの島の自然を愛しているので、リゾート開発で失われていく自然を憂いつつも、変わらざるを得なかつた島の現状をみんなで積極的に知つていく姿勢が大切である。島に住む人々の高年令化に対する実践活動を挙げ共に生きていることのすばらしさを強調し、今後ここで打ち上げた花火を岩城の中で育てより広く深くふれあいを作つていかなければならない。

岡さんが、地域を愛し土地を愛し隣人を愛し自分を愛し、健康で充実した人生を送る為に明日から積極的に何かを始めよう、そして是非第二段の女性フォーラム開催をとつけ加え、会場全員で「ふるさと」を歌つて第一部が終了した。

第二部のアトラクションとして、東京で活躍している亀山法男、勝子夫妻の音楽会「亀さんのおりもの」が催された。固い話合だけでなく女性らしさを強調する為にもなごやかな雰囲気を作りたいと、三回目である「本物ウォッキング」を合わせて企画したものである。広いレパートリーで繽り広げられるピ

アノの音とソプラノの歌声に参加者は魅了され、会場いっぱいの花も音に揺れ動いているようだつた。

終えてみて、まずは大成功といった感じである。岩城には個々の婦人団体があるけれどそれが一緒にになって何かをすることがなかつた。準備段階において、後援の名目の為に各種婦人団体の連合会なるもの「岩城村女性の集い」を発足させた。これから、この組織名の実質的な充実を図る為にも“鉄は熱いうちに打て”である。



＊＊ あなたのコーナー ＊＊

◆ 弱気になるな
行政マン！

愛媛県今治地方局

山本 均

前回号で信連の井口さんが、農協マンに、「情報センターを広げよう」と呼びかけていた。

私は行政職員だから、自分を含めた自治体職員について考えてみようと思う。

とかく役所は堅いところで、制度に縛られた融通のきかないところであると認識されている。

また職員も同様に堅くて消極的な人間と思われているのではないだろうか。

何より恐れるのは、役所は堅いという一般的の仮定を利用して、こちら側がガードを固め、何かをできないことの言い逃れをしているのではないかという点である。

そして我々は言う。

「ウチの組織は、○○県と違い融通がきかないもので……。」

しかしもうそんな比較論は世の中では通用しないだろう。

金沢の出島二郎氏の講演の言葉を今でも思い出してしまう。

「古いのはお前だ。相手が古い

のをわかっていて、それを説得できないような理論しか出せないお

前のほうがよっぽど古い。」

だから、自戒の意味も込めて私は言いたい。

「行政マンよ、弱気になるな。あるかないかもはつきりしない批判に疑心暗鬼になるな。」

他人の仮定をうのみにせず、自分でコミュニケーションせよ。

貴重な時間を使って悩んだりするな。目標をはっきりさせて、前向きに時間を使おう。」

職場の昼休み。女子職員とダベっていると彼女曰く、「山本さんはナーンにも悩みがないみたいですねえ。」

「バカヤロ、悩みなんてのは、

目標と考えとけばいい。お前みたいくだらんことで悩んでおれるか……。ナニ? 不倫?」

「ウソですヨー。」

「おいこら冗談はよせ。」

＊＊ あなたのコーナー ＊＊

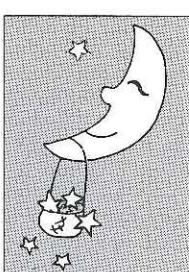
◆ 話しのネタに
“芝浦”へ……

田村 純子

新しい東京!として若者たちが注目している芝浦地区へ、先日の連休に行ってみた。本来の目的は、別にあったのだが、ある雑誌に

「ウォーターフロントを楽しむ法」なんて特集が組まれていたのを目にしたから、『話しき』

のネタに行ってみようか?』という事になつたのだ。



水の流れに、ふと安

心感を覚えるのも確か。

何となくエキゾチックな雰囲気を味合わせて

くれるのも確か。そして何よりも、良質の環境づくりに絶対必要条件とされている“緑と水”が、ここ

芝浦の水辺には存在するのだ。

結局のところ、『单调な毎日を

送っている中で、ふと、自然を求める人間の本能がムクムクと芽を出した時、“水辺”が活用されるのがろなあ……』なんて一人で納

店の中は薄暗く、窓からは夜景の美しさと運河のゆったりした流れが望める広いスペースに、カウンターと幾つかのテーブル、BGMにはタンゴ、おまけに専用の船上

バーも用意してある。もちろん利用しているのは二十歳代の若者ばかりである。

がんばってね、まちづくりセンターのみなさん!!

最近、県内の自治体でもパソコン通信の興味を示すところが増えてきました。そこでますます期待が高まるのがまちづくりセンター・コーナーの運営状況。パソコン通信が実務にどのように活用できるか、自治体のみなさんの最大の関心はそこにあるでしょう。センターのみなさん、情報入力は大変ですが、ここはひとつ踏ん張ってください。

それでは今回は、まちづくりセンター・コーナーの「ルポあの町この村」コーナーと、「まちづくり情報Q&A」コーナーをご紹介しましょう。

「ルポあの町この村」コーナー

まずは、コーナー担当者（マネージャー）幸地さんのオープニング・メッセージです。

1 幸地慎一

TOWNのみなさんこんにちは！ まちづくりセンターの幸地です。すでにご承知のとおり2月から「HOTネット」のコーナーも新しくなりました。

このコーナーでは地域づくりに関わっている人達にそれぞれの現場で生かしていただきため、当面、私達が県内外の先進地や県内で地域づくりに動向を紹介していくかと思います。

ルポ形式での報告ではありますが、真面目半分遊び半分で肩の凝らないコーナーでありたいと思っています。

また、このコーナーで感じたことやご意見がありましたら「まちづくりサロン」の方では是非お会いしたいと思っています。

まずはご挨拶まで

・・・そして・・・

「まちづくり情報Q&A」コーナー

まずは、コーナー担当者（マネージャー）山本さんのオープニング・メッセージです。

1 山本幹男

HOW DO YOU DO ECCCの皆さん
MY NAME MIKIO YAMAMOTO

2月1日から「まちづくりHOTネット」で「まちづくり情報Q&A」のコーナーを担当することになりました。時々、のぞいてみて下さい。

また、まちづくりについて、こんなことを調べたい、聞きたいと言うことがあれば、「まちづくりサロン」へ書き込んで下さい。分かる範囲でお応えしたいと思います。よろしくお願ひします。

なお、「まちづくりHOTネット」には、従来からの「まちづくり情報・資料室」と新しく始まった「ルポあの町この村」のコーナーもありますので、是非のぞいてみて下さい。

☆ ご意見や提供したい情報があれば ☆

このページは、パソコン通信ネットワーク「TOWNタウン」のまちづくりセンター・コーナーとクロスオーバーさせています。

ご意見や提供したい情報があれば、まちづくりセンターまで手紙又はFAXでお寄せください。「TOWNタウン」上に代行入力して掲載致します。



拡げましょう ヒューマン ネットワーク

Vol. 7



えひめコンピューターコミュニケーションクラブ

今までに掲載されている
情報（タイトル一覧一部）

Q：わたしの町は、花
からのまちづくりを
と考えているところ
です。

Q：愛媛県内および全
国の第三セクターに
よる特産品の生産・
流通開発や観光開発
など地域振興のリス
トはないですか。

Q：連休が近づきまし
た、博覧会でも見学
しようか思っていま
す。

どういうところで
やっているか、教え
て下さい。



まちづくり活動の情報誌として、この「舞・

たうん」を隔月で発行しております。

内容についてのご意見や、活動内容についての記事など気楽にどしどしお寄せ下さい。

個人宛の恋文やファンレター等々なんでも結構です。お待ちしてます。

次回「舞・たうん」は、八月十五日
発行の予定です。

お楽しみに！

「舞・たうん」編集係

二人のM.S.（丹下・久保田）まで。

〒七九〇 松山市道後一萬一の二

（財）愛媛県まちづくり総合センター

TEL ○八九九

（二五）五五五七

FAX ○八九九

（二五）六六八〇

まちセン
なまこ

人は絶対絶命に追いつかれ、逃げ場を失った時、「火事場のクソカ」が生まれるらしい。

私は、この「クソカ」がまるいのだろうか？ まるなら、何故ではない。いや、まだ絶対絶命ではないのだろうか？ ちょ、トーキの原稿を前に、今こう思ふ。

（裸のゲン）

17年ぶりに松山へ住むことに
なった。当時は10代でさくら。
今は35歳の夫じさん。島を出る
に際しては小さな地域のこと、人
口減少も減って大事件。「島さ
くらは先づ島に住むこと」と言っ
ていら自分が、しばらく島を見
る身上に、遠く視点から地域を見
直す目を少しあも養えることがで
きればと思うが、ここ……。

（ルパン）

久しぶりに我が家に帰ると、ど
こで庭でどこから山なののか分か
らない。そんな庭で、松の新芽が
遙しく空に向かい、さつきの花は
草に埋もれてしまつたり。

剪定鉄を腰に、軍手姿で雑草を
引きながらつぶやく。「ど、こい、
お前も生きてるな。」

自然は自然に生きている。松山
とは違う時の流れが、そこにある。
（野村のりんちゃん）

つい先日訪れた、沢内村福祉共
同作業所で「身の置き所のない」
思いを味わいました。そこではハ
ンディを背負った人達が、姉妹と
して割箸の販賣作業をしていま
した。どんなハンディーを背負お
うとも人として生きることの出来
る地域社会とは、視点を広げ、人
としての多様な価値観を認めあえ
る地域社会とは。「共に生きる」
原点に接した時、私に現実を確
て受け止める勇気がはたしてあった
のだろうか。

（こうちゃん）

「分（ぶん）」と言う言葉があ
る。ある研修会で教えられた。今も
頭のすみに残っている。ここで言う「分」は、身分・気分・天分など
でお分かりのように、「身のほ
ど」「身のだけ」と言うことであ
る。辞書にこんな引用があった。
徒然草の一節で、「己のが分を知
りて、及はざる時は、速やかに止
むを智といふべし」と。けだし、
と思われる。

まちづくりも、「自らが、自ら
の分で、できることを、できるよ
うに、精一杯やる」と言うことの
ように思う今日、この頃である。

（ニッキー）